

# 全科協ニュース

URL <http://www.kahaku.go.jp/jcsm/>

全国科学博物館協議会 ☎110-8718 東京都台東区上野公園 独立行政法人国立科学博物館 Tel.5814-9863 Fax.5814-9898 平成22年5月1日発行（通巻第232号）

## 平成21年度海外科学系博物館視察研修報告

平成21年度海外科学系博物館研修では、20名の方々にご参加いただき、平成22年1月10日（日）から12日間にわたって、米国の5つの施設を公式訪問しました。参加者の皆さんに、各館に関する視察内容と全体を通しての感想を執筆いただきました。

### アメリカ自然史博物館を訪問

最初の公式訪問は、ニューヨークのセントラルパーク西隣に位置するアメリカ自然史博物館です。地下鉄（Museum of Natural History）の改札口を出ると、向かいに博物館の入口がありました。開館時間前だったので地上に出ると、目の前にローマ風の大きな建物がそびえ、それが博物館でした。博物館の前には第26代米大統領セオドア・ルーズベルトの騎馬像があり、我々を迎えてくれました。振り返ると、向かいには広大なセントラルパークで、反対側（東側）にはメトロポリタン美術館があり、理想的な立地です。

ローマ風アーチ型の正面入り口をくぐると、広大な空間がひろがり、その中央にある長大な首を伸ばしたバロサウルスの骨格標本に目を奪われます。アロサウルスから我が子を守ろうと後ろ足で立ちあがった姿です。我々一行はRaymond G. Salva氏（Director, Traveling Programs and International Partnerships）に迎えられ、最初に小ホールで博物館の概要を説明して頂きました。

その要点を記しますと、1869年セントラルパーク内に創立、その後現在の場所に移り規模を拡大・充実させてきた。最近ではプラネタリウムを備えた地球宇宙ローズセンターが開設された。職員はおよそ千人、200人を超える科学者を擁し、最先端の科学研究設備を備え、科学ビデオの配信や世界中に調査団を派遣するなど様々な活動をしている。さらに、博士号を授与することができるようになった。

映画「ナイトミュージアム」の舞台で知られるが、ディズニワールド、ディズニランドについてアメリカで三番目の人気

スポットで、世界中から年間500万人を超える来館者がある。さらに、「ダーウィン」や「金」、「ダイヤモンド」など様々な巡回展が企画・制作され、世界中で巡回展が開催されている。経営面では、このような大規模な施設が寄付金・入館料・ショップ・レストラン等の収入で賄われ、公的な資金は数パーセントに過ぎないとのこと、アメリカならではの日本では真似の出来ない仕組みです。

説明の後は自由見学ということで、館内を見て回りました。常設展示は恐竜から宇宙、地学、環境、生物、人類学などの45の展示室に分かれ、重厚な建物の内部に突如現れる巨大な剥製や模型、壁面を切り取り自然界で暮らす動物



を再現したジオラマ展示、世界中の生活文化を資料と模型で紹介するコーナーなどが印象的でした。地域を限らず、世界中の生き物や文化、環境などを広く知ることが出来る博物館です。アジアの生活にも多くのスペースが割かれていましたが、日本の展示は仏壇や鳥居、昔の正月の風景など、私たちから見ると気になる展示でした。また、親子向けのハンズオン展示から屋外観察教室、スリープオーバーなどが幅広く実施され、親子向けの内容から専門的な内容まで、全てを網羅した大規模博物館です。

ミュージアムショップも大変充実しています。一部3階の吹き抜け構造で立体的に構成され、各階から入ることができます。階の異なる展示に行くときに、ショップを通ると近道になることもあり、何回か通り抜けました。

特別展示「シルクロード」が開催中でした。雰囲気を出す大掛かりな造作や資料、ハンズオン展示、さらに関連グッズやお土産を売るショップもある大規模な展示でした。ヨーロッパとアジアの交流がメインテーマですが、日本の出番はほとんどなく、私たちに馴染みのシルクロードとは少し違う視点が興味深いことでした。

また、プラネタリウムでは、自然史博物館制作の“Journey to the stars”という新しい番組が放映されていました。内容は最新の天文学的知見に基づくもので、ドームいっばいに迫力ある精緻なCG画像が展開し、有名映画スターのナレーションと床を震わす大音響で、迫力ある宇宙ショー仕立てになっていました。この番組は、2010年春から日本でも公開される予定で、日本でどのように受け入れられるか興味のあるところ です。

とても一日では見きれない広さと内容でしたが、午後も遅くなり、いささか疲労を感じて博物館を出ました。セントラルパークを歩いて帰ることにしましたが、公園の中には氷河時代の遺物という巨石が点在し、自然史博物館がそのまま公園内に続いているようでした。自然史博物館の発祥の地がこのセントラルパークであることを思い出し、地球の歴史に思いを馳せながら、樹木の間を透けて見える巨大な自然史博物館を眺めると、博物館の恐竜のようにも感じられます。ささやかな私たちの館を恐竜の時代の哺乳類に重ねつつ博物館を後にしたのでした。

梶谷 東輝（船の科学館）、柴田 勝重（東海大学自然史博物館）、土佐 誠（仙台市天文台）

## リバティ・サイエンスセンター

ニューヨーク市街地から車で約30分、ニューヨークのベッドタウンであるニュージャージー州、自由の女神を臨むリバティ州立公園にある。1993年開設、約1年間の休館を経て2007年にリニューアルオープン。展示物はテーマ、内容ともに独創性があり、数多くのソフトプログラムも行なわれている科学博物館である。

当日は、開館間もない9:00過ぎに到着したが、すでにエントランスホールは入館を待つ小学校団体で賑やかだった。まず、館長・CEOであるEmlyn Koster氏の案内で、地元の高校1年生約100名と「ビデオ・カンファレンス」に参加した。これは博物館の講義室と病院の手術室とを中継で結び、博物館スタッフのファシリテーションのもと、医師が生徒とやりとりしながら心臓バイパス、脳神経外科等の手術を行なうものである。この日は腎臓移植手術で、医師は縫合しながら、最新の医療技術や医師という仕事、自身の高校時代の進路決定などの話をしていった。技術・情報に触れ、科学を知ることはもちろん、仕事やキャリア、道徳観を学ぶことをも目的としている。進路選択の時期である高校生にとって、両親以外の大人と接し、仕事を知る貴重な機会であり、その場を科学博物館が提供していることに感銘を受けた。Koster氏によると、3時間以上にもおよぶものだが、どの生徒も学校での授業と違い、最後まで集中力を持って真剣に受けるそうだ。

次に、いくつもの独創性に富んだ展示室を見学した。「Skyscraper」では、高層ビルの建築技術や建築工学を実



スタッフのファシリテーションによるビデオ・カンファレンス



験や体験を交えて理解できる。展示室に入って正面中央には、アメリカ同時多発テロ事件で崩壊した世界貿易センタービルの真二つに曲がった実物の鉄の梁が展示され、衝撃の強さを物語っている。このほか、透明なコンテナの中でレインコートを着用してハリケーンの暴風雨を体験したり、2階ほどの高さの鉄骨上をヘルメットと命綱一本で歩いて高層ビルの建設職人を疑似体験したり、街に落ちる影を最小限に抑えるよう高層ビルを配置して都市計画をしてみるなど、ハンズ・オン型展示であり、その多くがマインズ・オン型展示であった。「Infection Connection」では、病原菌等と自分たちの生活との関係、どのように感染から身を守っているのかを学ぶことができる。模擬研究室では、実際に細菌や病原菌に対して行なわれている技術について15～60分間の実験で理解を深めたり、くしゃみを再現する大きな鼻の展示物で病原菌の特性を学んだり、年齢や発達段階それぞれで楽しみながら学ぶ工夫がされている。目の前を流れているハドソン川の恩恵による産業や自然環境を知る地域展示「Our Hudson Home」では魚類が、生きものどうしのつながりを知る「Eat and Be Eaten」では両生類や昆虫類が生態展示されており、年齢を問わず楽しんでいる様子が見受けられた。このほか未就学児を対象とした展示室、化石燃料や自然エネルギー、音の波長や伝わり方などの科学的現象を扱ったものなど、展示物のテーマは広範にわたっている。各展示室にはボランティアがおり、親子連れなどに積極的に促しや解説がされていた。また、「ひと」だけに頼らず、展示物の横にある電話番号に携帯電話でかけ、解説を聞くというシステムも上手に導入されている。

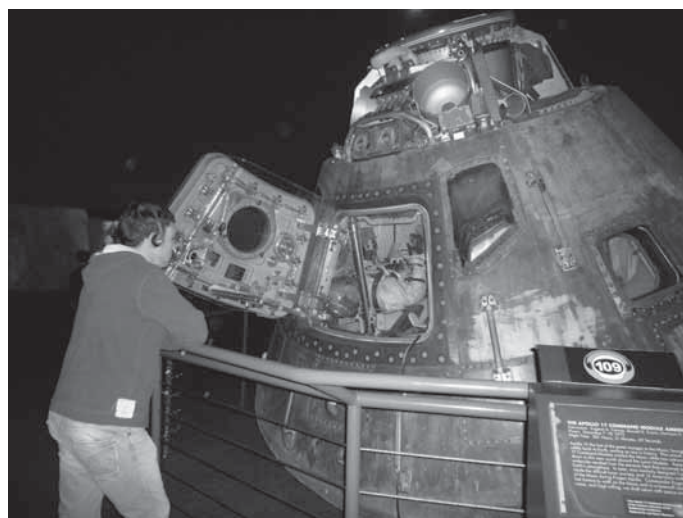
これら以外に、学校団体や教員を対象としたプログラムやパソコンを使って学校の教室と遠隔授業を行なうなど、あらゆる対象と方法を用いて学ぶ機会を提供、サポートしている。また、パンフレットには展示物ごとに対象年齢を表す印が記され、ホームページの各展示室の紹介には、未就学児向けの展示物が明記されており、きめ細かい対応がされている。案内のなかで「年齢が違っても根底のねらいは同じ、伝える方法が違うだけ」というKoster氏の言葉に共感したが、実行することの難しさを改めて感じ、発達段階に合わせたソフトプログラム開発等のレベルの高さを実感した視察であった。

嶋野 弥名子 (環境エネルギー館)

## ヒューストン宇宙科学館

### (概要)

ヒューストンの中心部から南に25マイル。NASAのジョンソン宇宙センターの一角にある宇宙科学館で、開館は1992年。ジョンソン宇宙センターの公式ビジターセンターとして、有人宇宙飛行について参加体験型の展示や教育プログラムを提供している。



ヒューストン宇宙科学館 (以下宇宙館) は、1986年に結成されたManned Space Flight Education Foundation, Inc. (有人宇宙飛行教育財団、以下財団) の所有及び運営で、財団形式はNPO (Non-Profit Organization) である。財団には理事会があり、理事数は、当初13名でNASAから6人、その他から7人であったが、最近ではNASAからの6人は変わらないまま、総数で35名人まで許されるようになっている。理事を増やした理由は、色々なところから人を募り、それを通じて寄付などをより受けられるようにするためである。同財団が持つコレクションはそれほど多くはなく、他はNASAやスミソニアン博物館などから借りている。

来館者数は前年度約75万人。内訳は64%がテキサス州民、20%が外国人、その他がテキサス州民以外のアメリカ人である。従業員は正社員が100名弱、契約社員等が150人程度である。その他30人程度のボランティアが存在する。

運営経費は入館料や食堂・売店・有料施設収入等ではまかなわれており、企業等の寄付による収入は3%程度に過ぎない。入館料を下表 (表1) に示す

表1. 各年齢の一人あたりの入館料 (ドル)

4才未満	子供 (4才～11才)	大人	シニア (65才以上)
0	15.95	19.95	18.95

**(教育普及活動)**

ヒューストン宇宙科学館のオプションの中に、教育普及活動を実施している機関として組み込まれている、ジョンソン宇宙センターがある。当センターはNASA（アメリカ航空宇宙局）に属するものであり、博物館施設ではない。見学できる対象は変動するが、今回は管制室であるミッションコントロールセンター、宇宙施設のモックアップ、無重量環境訓練施設（Neutral Buoyancy Laboratory）などを見学することが出来た。更に訓練中の宇宙飛行士を見ることが出来る可能性もある。

ジョンソン宇宙センターでは教育普及活動プログラム（以下プログラム）がたいへん充実している。その目標は、科学や技術、工学、そして基礎となる数学教育の発展ばかりでなく、子供たちが宇宙に興味を持ち、さらには、アメリカの宇宙計画に子供たちが参加したいという気持ちを持つ事を目指している。そして、この目標を具現化するために、様々なプログラムを準備して、実行する部署（以下教務部とする）が充実している。特徴的なことは、その教務部が子供たちのためのプログラムばかりでなく、学校の教員（以下先生）がカリキュラムとして、直接教室で使えるプログラムの開発も行なっている点である。先生のためのプログラムは日本でも様々あるが、役割分担の考え方から、直接教室で使用するプログラムを博物館が用意する例は少ない。

プログラムは、年齢については小学生以下～大学生のレベルまで、期間については年間を通じてと、対象年齢、期間ともに様々形式を準備している。特に、他では例をみないプログラムとして、選抜された高校生達が、NASAの研究者の手伝いをしながら、プログラムを実施していく体験型学習がある。これは、高校生がキャリアを積むことによって、大学進学を含めて将来の進路に役立つ事を考慮している。

その他に、先生のためのプログラムも充実している。先生が教室でそのまま使えるプログラムばかりでなく、先生が基本的なカリキュラムを作るサポートも準備されている。学生達に科学や技術、工学、そして基礎となる数学に興味を持ってもらうために、参考書やビデオプログラムも準備されていて、先生が簡単に使えることが出来るようになっている。さらには、学生の発展に応じて、ジョンソン宇宙センターが認定証を発行して、学生の進路に役立つようになっている。それらの学生の中から、宇宙に関する科目の教育

者になっている例が少ないないそうである。

我々一行は、関係の皆様のご配慮により、特別に国際宇宙ステーションにおいて4ヶ月半の長期宇宙滞在を果たされた若田光一宇宙飛行士のご案内、ご説明を得ることができた。

**(感想)**

特に感じた点として、予想以上に自前の収入で運営できていることである。その原因は、

- ①多くの展示物（実物及びレプリカ）等に入館料の高さを感じさせない質の高さ
  - ②各種アトラクション（Kids Space Place等）や体験型シミュレーション施設の充実
  - ③NASAの宇宙飛行士等訓練施設の見学（オプション）
  - ④食堂・売店・有料施設等による付帯収入確保に努力
  - ⑤教育普及活動プログラムの充実により、学校関係者の来館者増加策を講じている
- 事などが考えられた。

展示物の例として、宇宙船を間近に見ることが出来る様子を写真に示す。

守屋 實・遠山 由希子（交通科学博物館）、岡田 喜裕（東海大学海洋科学博物館）

**サンディエゴ自然史博物館について**

サンディエゴ自然史博物館は文化公園バルボアパーク内にある1874年設立の歴史ある博物館である。2001年に新館を増築し2006年には展示改修工事を行っている。年間来館者数は約42万人で、そのうち学校団体が約3万人、アウトリートプログラムで約1万4千人、レクチャーやファミリープログラムへの参加が約1万人と、総来館者の1割以上が教育関連からというところも教育普及事業に注力している方向性が見える。

組織は理事会を筆頭に館長以下4つのセクション（①運営・会計、②展示・教育、③連携推進、④研究・資料収集）によって構成されており、非営利団体である民間法人が運営を担っている。運営費の60%以上を入館料収入、ミュージアムショップの売上及び教育プログラムの参加費といった運営上の収入で賄っている。また寄付金や企業出資、メンバーシップ収入などを合わせた自己収入は運営費の90%を超え、政府からの助成金はわずか2%を占めるにすぎない。





い。

職員数はパートタイム勤務者も含め224名。うち7名がドクターの資格を有する。注目すべき点はボランティアの充実度で、約600名ものスタッフが活動しており、新規登録スタッフの面接から担当の振分けまでをボランティア内で行い、教育普及講座や館内案内全般を完全にボランティアが担っている。活動領域の多様性とスタッフ運営の自主性については学ぶべきところが多い。

調査研究事業においてはカリフォルニア地域における鳥類、哺乳類、植物、昆虫、爬虫類、海洋生物、鉱物及び古生物といった分野を対象とし、当該分野の標本収集・保管を行っている。標本収蔵点数は約920万点と地域の自然史を研究対象とした博物館としては相当な数量を有するものと思われる。これら収集された標本は調査研究や展示事業に活用されるとともに、活発に行われている教育普及活動にも貸し出し標本などの用途で大いに活用されている。また、同館には科学ライブラリーとしては最も古い歴史を持つ図書資料室がある。17世紀頃の書籍や貴重な初版本などが収められており蔵書数は約5万～6万冊と充実している。

展示事業について常設で展示されている標本類は、ほぼ全て自分たちで収集してきたものが使用されている。剥製標本などは生息環境を模したジオラマとともに展示されている。また骨格模型の一部を見学者が動かして確認出来るなど、「資料展示」になりがちな自然史分野を出来るだけ「体験型」で見せようという工夫が見受けられた。「水・カリフォルニアの自然環境」をテーマとした展示室や特別展示「ワイルドカリフォルニア」は、カリフォルニアの自然史から現在の環境課題に至るまで、生態系を見せながら子供にも大人にも興味喚起とともに問題提起を行うものとなっている。カリフォルニアは乾燥地帯であること、水資源・水

環境の重要性などを「自分のこと」として考えるきっかけづくりになっており、地域密着型のテーマ性が生きている。

教育普及事業は同館が非常に力を入れている分野であり、実施している教育プログラムは非常に多岐に渡っている。館内で実施する子供向けプログラム以外にも、各学校等に赴き実施する出前授業、自然観察会や宿泊プログラムなど館外での教育普及活動も活発に行われている。これら学校への出張や学外授業などが4回/週とかなりの頻度で実施されているだけでなく、教育会員を対象とした授業向けの標本資料貸出も行っている。プログラムが非常に効果的かつ有効に利用されており、随所に学校と館との連携・協力体制が整っていることが感じられた。

いずれの事業においても地域の自然史を探求し、それらを未来に承継するという大命題のもと行われており、事業の拡大や新たな展開を行う上で、この一貫性は極めて重要なものとなる。多くの施策や事業展開とともに、この同館の根幹を成す基本姿勢についても学ぶべき点があるのではないかとと思われる。

熊代 知世 (神戸市立青少年科学館)、関根 則幸 (国立科学博物館)

## 自然と共存し自然を伝える

### —カリフォルニア科学アカデミー—

カリフォルニア科学アカデミーは、1853年、カリフォルニアが合衆国の州となった3年後に設立された、西部では最も歴史ある博物館である。アカデミーの名は展示だけでなく研究も行う機関であることによる。

設立の契機は、1940年代後半以降のゴールドラッシュとされる。金の採掘による環境悪化に対し、ナチュラリストの



外観

間でカリフォルニア本来の自然を記録・保存すべきとの考えが生まれた。

開館は1891年。当時はサンフランシスコの町中にあったが、1906年の地震で建物と大部分の標本を焼失した。1916年にゴールデンゲート・パーク内に再建、後に水族館、戦後にはプラネタリウムも加わった。1989年に再度の地震で建物が損壊、一部直すならついでに、と全面改築が決定され、3年の改築期間を経て2008年リニューアルオープンされた。収蔵標本は2500万点、水族館や熱帯温室の飼育生物は900種、3万8千匹を数える。

テーマは環境と生物多様性、持続可能性の3つである。展示メッセージも然ることながら、館自体にも環境への配慮を見ることができる。

イタリア人建築家レンゾ・ピアノにより設計された建物は、ガラス張りの外壁を通して公園の自然を借景として取り込んでいる。下層階はガラス張りではないが、周囲を掘り下げた半地下としており、公園から見て人工的な構造物は視界に入りにくい。

屋上は緑化され、アカデミー全体の電力の約1割を賄う太陽電池パネルを設置している。

空調には屋上の円窓と、外壁のルーバーを使用する。ルーバーはコンピューターで自動開閉され、公園内の空気を取り込む。天気良ければ円窓が開き、温まった空気を逃がす。冬期には、床下のパイプに温水を通して輻射熱暖房も行う。

建材の鉄は90%が再生鉄、壁の断熱にはジーンズの廃材、ベンチやデスクなどの木製品にはパーク内の自然倒木

が利用されている。

展示室は大部分がフレキシブルである。床は1辺8フィートの正方形に区切られ、頂点には地下の構造基盤に届くアンカー孔、中心には床下の電力、AV系に繋がるダクト孔が開けられている。これに展示の柱やコンセントを差し込むことで、何処でも作りたい位置に、作りたいサイズの展示を設営できる。天井にも8フィート毎に吊り照明用のアンカーが備えられている。

展示内容は「館に相応しいか?」「知的刺激を創出できるか?」「市場ニーズに合うか?(人気が出そうか?)」の3つの基準で選ばれる。ニ

ーズ調査はマーケットリサーチ企業のデータベースを使用、展示完成後の教育・学習の効果を知る為の来館者への聞き取り調査も外注している。

収蔵標本の一部を研究者の様子と合わせて見ることでミニコーナーもあり、公開標本は随時変更されている。

展示室で来館者を迎え、展示を解説、籠められた館側の意図を伝えるのがドーセント(ボランティア)である。職員350名に対し、600名以上が登録している。誤りや偏見を排除した正確な知識を来館者に伝達するため、館の概要から専門的な科学まで、約36時間の研修を修了した後展示室に立つ。

WEBによる情報提供にも力を入れる。展示や研究の紹介のほか、飼育生物の様子や進行中の調査の現場報告など、複数のブログもある。

最新の科学ニュースを解説するブログ『Science in Action』は、1950年代にアカデミーが放送していた同タイトルのテレビ番組を起源とし、アカデミー内の複数の科学ジャーナリストが、学術誌に掲載された論文や国内の環境問題等を一般向けに紹介している。関連動画やインタビューが必ず添えられており、最新の話へへの即応力に驚かされる。新しいもの4本は展示室内のモニターでも見ることができる。

展示室のフレキシビリティに関わらず、最新の研究状況を標本・資料だけでフォローすることは難しい。更新の容易な動画の設置は、単に最新の科学を伝えるのみならず、科学が常に動き続け、変化し続けるものであることを来館者に思い出させる意味に於いても有用であると思われた。

荻野 久憲・西村 美里(国立科学博物館)



# アメリカの博物館から学ぶべきもの

世界の石の花・華の博物館 玄武洞ミュージアム 館長 田中 榮一

指定管理者制度が始まり、新しい博物館の有り方が検討され、新公益法人法が新しく歩みを始めている時です。博物館をつくり、財団法人を設立して相当施設から登録博物館を目指して進める中で博物館は展示施設ではなく調査研究の機関なのだと示され、多くがこれを支持する現実の中でアメリカの状況を知りたいと20年ぶりに訪ねることになりました。視察した博物館の状況は先進の博物館であったこともあり、アメリカの全体像とは異なる部分もあるでしょうが、以前に比べて大きく変わっておりました。

## <公立博物館の数が少なくなり博物館は非営利の私企業で運営されている>

公立は少なく私立が多く規模も大きいという状況でしたが、現在は博物館は法律・税制上非営利の企業となっています。多様性を重んじる国で多様な博物館を動かしてきたのは市場原理です。先進国の中で一番教育に対する投資は多いが公的支出は少なく教育は市民でおこなうと言う文化がありこれを支える人々も多く、多くの先人たちの絶え間の無い好奇心と情熱・努力の積み重ねが自立した博物館をつくりあげています。

## <最先端の博物館は高い入館料と食堂、ミュージアムショップによって成り立っている>

運営の資金は3分の1が補助金で3分の1が博物館の事業収入、3分の1が財団や個人からの寄付金とされ、入館料は原則無料で寄附として3ドル5ドルとされていましたが、大きく15ドル20ドルへと変わり、大勢の来館者が溢れて経営に占める事業収入が50~85%と変わり市民の利用が博物館を支えています。日本の博物館よりミュージアムショップや食堂も充実して経営を支えています。補助金の割合は低下し、寄付金も減っています。

学校との連携は強く、有料のカリキュラムとしての利用があり、出前授業も盛んです。

入館者の4分の1以上は学校のカリキュラムとしての利用とされる状況は続いており一層増大しているようでした。先生に引率された多くの学校の学習に出会うことが多くリバティ・サイエンスセンターでは来館者の大半は生徒たちの学習で臓器移植の中継を見ながら真剣に学習している子どもたちは授業そのものでした。博物館の研究の成果が国の

教育教材として用いられ、専門の部門が学校と常に連絡して学習を進めており、標本の貸出や出前授業も行われており学習は有料の利用でした。

## <高度な専門知識と時代の求めに対する対応が多くの来館者を引き寄せている>

ニューヨーク自然史博物館では120回の海外発掘調査の実施によって収集されたすばらしい資料と高度な専門知識を有する200名の科学者による研究が展示を支えており、成功の鍵は海外に出かけ世界の学者と協力して進め世界のものになっていること。一番正確な今の科学を伝えていることと語られました。博士号レベルの学士を得る分野も持つとされ、多くの博物館のテーマは環境・宇宙など時代の最先端が取り上げられ、カリフォルニア科学アカデミーの屋上は小山の連なる草木の森になっていました。展示は来館者をエキサイトさせ知る楽しさに溢れています。研究部門は充実し、企画展は魅力に溢れ、日常の活動にも第三者機関が評価にかかわっており、研究の分野も見せるよう工夫され、展示が自由に変えられるように床や壁面が工夫され、作りつつある現場も期待を高めていました。

## <多くの寄附とボランティアがいつでも力強く博物館を支えている>

教育を支える税制があって館長の一番の仕事は寄附を集めることとされ、寄付金が博物館の運営に欠かせないものに変わりはありませんが、経営努力が成果を上げて、寄付金の割合は少なくなっていました。活動を支えるボランティアの数は多く何百人もの人たちが無償で展示や教育に参加しそれぞれの分野を支えています。

## <アメリカの博物館の歩みはこれから進むべき道を教えてくれる>

知の最先端をゆく博物館は社会の前進のために欠かす事の出来ないものとなっていることを改めて学ばせていただきました。日本でも市場原理は求められてきます。博物館は研究ではなく展示を通して評価されるものです。日本の一番の課題は教育に欠かせない存在になること、市民の情熱や発想が活かせること、知る楽しさが溢れ、ミュージアムショップや食堂も充実して来館者を増やし自立を目指すことではないでしょうか。

## ■新設館情報

米ウェスト・フロリダ大学で、フェッターマン米海軍中  
将記念海事博物館を2014年に開館へ

Vice Admiral John H. Fetterman State of Florida Mari-  
time Museum, University of West Florida.

<http://www.uwf.edu/maritime/home/renderings.shtml>

## ■常設展情報

米ヘースティングス博物館で、常設展「ティロサウル  
ス：白亜紀の巨大海竜」を開設

公開開始：2010年1月10日

Tylosaurus: The T-Rex of the Cretaceous Sea.

Hastings Museum of Natural & Cultural History, Hast-  
ings.

<http://www.hastingsmuseum.org/exhibitions/tylosaurus/index.htm>

米ワシントン国立自然史博物館で、人類の起源ホールを  
開設

公開開始：2010年3月17日

David H. Koch Hall of Human Origins.

National Museum of Natural History, Washington DC.

<http://www.mnh.si.edu/exhibits/>

<http://humanorigins.si.edu/exhibit>

英ケンブリッジ大学スコット極地研究所博物館が、リニ  
ューアル・オープンへ

公開開始：2010年6月1日

Polar Museum, Scott Polar Research Institute, Univer-  
sity of Cambridge.

[http://www.spri.cam.ac.uk/museum/transforming/dis-  
plays.html](http://www.spri.cam.ac.uk/museum/transforming/displays.html)

米ロサンゼルス自然史博物館で、常設展「ほ乳類の時  
代」を開設へ

公開開始：2010年7月11日

Age of Mammals.

Natural History Museum of Los Angeles County.

[http://www.nhm.org/site/explore-exhibits/upcoming-  
exhibits](http://www.nhm.org/site/explore-exhibits/upcoming-exhibits)

[http://latimesblogs.latimes.com/culturemonster/2010/  
03/natural-history-museum-opens-restored-building-wit-  
h-age-of-mammals.html](http://latimesblogs.latimes.com/culturemonster/2010/03/natural-history-museum-opens-restored-building-with-age-of-mammals.html)

## ■企画展・特別展情報

米アメリカ自然史博物館で、企画展「トカゲとヘビの生  
態」を開催中

会期：2010年3月6日～9月2日

Lizards & Snakes: Alive!

American Museum of Natural History, New York.

<http://www.amnh.org/exhibitions/lizards/>

エクスポラトリウムで、企画展「海と空を読む：ポリネ  
シアの伝統的航海術の科学」を開催中

会期：2010年4月6日～5月9日

Reading Sea and Sky, the Polynesian Navigation.

Exploratorium, San Francisco.

[http://press.exploratorium.edu/reading-sea-and-sky-  
april-2010/](http://press.exploratorium.edu/reading-sea-and-sky-april-2010/)

<http://www.exploratorium.edu/neverlost/>

米プロビデンス自然史博物館で、企画展「星の一生：星  
雲から超新星まで」を開催中

会期：2010年1月30日～2011年1月2日

Life of Stars: From Nebula to Supernova.

Museum of Natural History & Planetarium, Providence.

[http://www.providenceri.com/museum/upcomingexhib-  
itions.html](http://www.providenceri.com/museum/upcomingexhibitions.html)

米バージニア大学医学部図書館で、巡回展「20世紀の  
健康ポスター（国立医学図書館所蔵品展）」を開催中

会期：2010年2月15日～5月28日

An Iconography of Contagion: An Exhibition of 20th-  
Century Health Posters.

University of Virginia Claude Moore Health Sciences  
Library, Charlottesville.

<http://news.hsl.virginia.edu/?p=1195>

<http://www.nlm.nih.gov/news/posters.html>

[http://www.nlm.nih.gov/exhibition/iconographyofconta-  
gion/gallery.html](http://www.nlm.nih.gov/exhibition/iconographyofcontagion/gallery.html)

米サンディエゴ自然史博物館で、巡回展「アメリカ自然  
史博物館の恐竜研究の最新成果」を開催中

会期：2010年3月27日～9月6日

Dinosaurs: Ancient Fossils, New Discoveries.

San Diego Natural History Museum.

<http://www.sdnhm.org/exhibits/index.html>

<http://www.amnh.org/education/resources/exhibitions>



/dinosaurs/

**米ワシントン国立自然史博物館で、特別展「アラスカ州西部の先住民族ユピック族の物質文化に見られる科学」を開催中**

会期：2010年4月17日～7月25日

Yuungnaqpiallerput: Masterworks of Yup'ik Science and Survival.

National Museum of Natural History, Washington DC.

<http://www.mnh.si.edu/exhibits/yupik/index.html>

<http://www.yupikscience.org/1intro/>

**米ファーンバンク自然史博物館で、巡回展「ヤモリの生態」を開催へ**

会期：2010年5月28日～9月5日

Geckos: Tails to Toepads.

Fernbank Museum of Natural History, Atlanta.

<http://www.fernbankmuseum.org/exhibitions/special/Geckos/>

[http://www.peelingproductions.com/Geckos\\_Tails\\_to\\_Toepads.html](http://www.peelingproductions.com/Geckos_Tails_to_Toepads.html)

**米ハーバード大学自然史博物館で、企画展「角と枝角（比較動物学博物館所蔵品展）を開催へ**

会期：2010年5月22日～2011年1月2日

Headgear: The Natural History of Horns and Antlers.

Harvard Museum of Natural History, Cambridge.

<http://www.hmn.harvard.edu/press-room/headgear.html>

**米ラスクルーセス自然史博物館で、巡回展「恐竜の巣、卵と子ども」を開催へ**

会期：2010年5月21日～9月12日

Hatching the Past: Dinosaur Nests, Eggs and Young.

Las Cruces Museum of Natural History.

[http://www.las-cruces.org/Public\\_Services/museums/nhm\\_upcoming\\_exhibitions.shtm](http://www.las-cruces.org/Public_Services/museums/nhm_upcoming_exhibitions.shtm)

[http://www.gondwanastudios.com/hatching\\_the\\_past.pdf](http://www.gondwanastudios.com/hatching_the_past.pdf)

**米オデッセー健康科学館で、巡回展「感染症についての正しい知識と予防」を開催へ**

会期：2010年6月16日～9月10日

Disease Detectives.

Global Health Odyssey Museum, Atlanta.

[http://www.cdc.gov/gcc/exhibit/exhibitions\\_changing.htm](http://www.cdc.gov/gcc/exhibit/exhibitions_changing.htm)

<http://www.diseasedetectives.org/about>

**米サンタバーバラ自然史博物館で、特別展「18-19世紀に描かれた海の無脊椎動物」を開催へ**

2010年6月4日～8月29日

Drawn from the Sea.

Santa Barbara Museum of Natural History.

<http://www.sbnature.org/exhibitions/10.html>

**米サンタバーバラ自然史博物館で、特別展「鳥類学者アレクサンダー・ウィルソン（1766-1813）が描いたアメリカの鳥類」を開催へ**

会期：2010年10月8日～2011年1月2日

Alexander Wilson: Father of American Ornithology.

Santa Barbara Museum of Natural History

<http://www.sbnature.org/exhibitions/10.html>

**米カーネギー自然史博物館で、企画展「トマトケチャップ王ヘンリー・ジョン・ハインツの時計コレクション」を開催（終了）**

会期：2008年7月～2010年3月31日

Time Machines: Watches from the H.J. Heinz Collection.

Carnegie Museum of Natural History, Pittsburgh.

<http://www.carnegiemnh.org/exhibitions/index.html>

**米エール大学ピーボディ自然史博物館で、企画展「ライム病と西ナイルウイルス」を開催（終了）**

会期：2009年10月10日～2010年4月25日

Solving the Puzzle: Lyme Disease, West Nile Virus and You.

Peabody Museum of Natural History, Yale University.

<http://www.peabody.yale.edu/exhibits/disdetect.html>

**バンクーバー博物館で、企画展「剥製の魅力（所蔵品展）」を開催（終了）**

2009年10月21日～2010年2月28日

RAVISHING BEASTS: The strangely alluring world of taxidermy.

Museum of Vancouver, Canada.

<http://www.museumofvancouver.ca/>

<http://www.ravishingbeasts.com/about-the-exhibition/><http://www.ravishingbeasts.com/images/>

＊(やすいりょう) Epost: RGYasui@gmail.com

# 5月6月の特別展

開催館	展覧会名	開催期間
岩手県立博物館	第62回企画展「病をいやす〜くすり・まじない・神だのみ〜」	3月27日～5月5日
	テーマ展「新指定文化財展」	6月1日～7月4日
秋田県立博物館	企画展「学芸員屋台村～秋田の食を考える～」	12月19日～5月16日
	第3回北東北三県共同展「境界に生きた人々-遺物でたどる北東北のあゆみ-	5月28日～7月11日
山形県立博物館	企画展「貝の世界-加藤繁富コレクション-	3月16日～5月9日
	企画展「やまがたの人形展」	5月22日～7月4日
郡山市ふれあい科学館「スペースパーク」	ホワイエ企画展「太陽のすがた」	4月2日～6月30日
磐梯山噴火記念館	巡回展「有珠火山」	4月10日～6月27日
ミュージアムパーク茨城県自然博物館	第48回企画展「空の旅人～渡り鳥の不思議～」	3月13日～6月13日
栃木県立博物館	企画展「つくる、えがく、しるす-歴史からの贈り物-	4月24日～6月15日
	テーマ展「ちよっくら行ってみっか! ツツジの古賀志山と鎮守の森多気山」	4月24日～6月15日
那須塩原市那須野が原博物館	「大恐竜展 -陸・海・空の覇者 集結-	6月26日～9月12日
群馬県立自然史博物館	第35回企画展「むし 虫 ウォッチング」	3月13日～5月5日
鉄道博物館	第3回コレクション展「井上勝と鉄道黎明期の人々」	4月24日～7月11日
埼玉県立自然の博物館	「埼玉の多様な生きもの」	5月14日～7月4日
千葉県科学館	プラレール∞ ～線路は続くよどこまでも～	4月23日～5月31日
千葉県立中央博物館	春の展示「雲南の地衣類」	3月13日～5月9日
	生態園トピックス展「生態園の植物・四季の見どころ」	3月16日～5月16日
我孫子市鳥の博物館	第56回企画展「鳥たちの旅」	5月1日～9月20日
国立科学博物館	大哺乳類展 陸のなかまたち	3月13日～6月13日
NHK放送博物館	スペシャルドラマ「坂の上の雲」の時代-日露戦争従軍騎兵将校の遺した水彩画-	3月24日～6月27日
	愛宕山時代の放送	4月27日～8月29日
	がんばろうふるさと 全国NHK放送局展 横浜・千葉・さいたま	5月7日～7月4日
	「コンピューターグラフィックスの最前線」	4月6日～平成23年2月
先端技術館@TEPIA	「感性価値創造イニシアティブ」	4月6日～7月4日
地下鉄博物館	「東京メトロにおける旅客輸送サービスの紹介展」(仮称)	6月～8月(開催予定)
東京消防庁消防防災資料センター 消防博物館	「徹底紹介! レスキュー車」展	4月29日～5月9日
多摩六部科学館	「ロボットとあそぼう」(仮題)	4月29日～5月9日
電気の史料館	企画展「尾瀬と東京電力 ～尾瀬の魅力と自然保護～」	3月19日～6月20日
馬の博物館	特別展「戦国の城と馬」	4月24日～6月6日
	テーマ展「阜月賞の歴史」	6月12日～9月26日
はまぎんこども宇宙科学館	企画展「ピンホールカメラと◇キラリ◇光のあそび展」	3月6日～6月13日
横須賀市自然・人文博物館	三浦半島 野の花・山の花	6月5日～8月22日
神奈川県立生命の星・地球博物館	企画展「学芸員の活動報告」	4月17日～5月30日
新江ノ島水族館	こどもの日～鎧や兜をまとった生き物たち～	5月1日～5月31日
黒部市吉田科学館	特別展「水辺の生き物」	6月5日～9月5日
富山市科学博物館	企画展「地球環境と立山の自然」	4月29日～5月24日
	企画展「アイデア浮かぶ科学の広場」	6月5日～7月4日
佐久市子ども未来館	巡回展「サイエンス はてな? 学園」	4月17日～8月31日
	ミニ企画展「長野県内の研究所-1」	5月22日～6月27日
	資料お披露目「博物館で“お宝”みい〜つけた!」	4月10日～5月16日
岐阜県博物館	第30回全国豊かな海づくり大会協賛行事	5月29日～7月19日
	資料紹介展「川と海を旅する魚たち」	
	マイミュージアムギャラリーの展示「懐かしのピン展」	5月23日～6月27日
	特別展「エネルギーのお城」	4月24日～8月30日
大垣市サイトピアセンター こどもサイエンスプラザ	特別展「エネルギーのお城」	4月24日～8月30日
中津川市鉱物博物館	第26回私の展示室「恵那のシダ植物」	3月28日～5月16日
奇石博物館	企画展「結婚記念日の石たち」	4月24日～7月11日
東海大学海洋科学博物館	企画展「屋台水族館」	4月29日～5月5日
	変わりコイのほり掲揚	4月1日～5月5日
ディスカバリーパーク焼津	特別展「手作りおもしろ科学展」	3月20日～5月30日
	特別展「のぞいてびっくり万華鏡2010」	6月3日～7月11日
豊橋市自然史博物館	「地質の日」「国際博物館の日」記念事業 資料紹介展「渥美半島の化石と地質」	4月24日～6月27日
トヨタテクノミュージアム産業技術記念館	トヨタコレクション企画展「職人さんはアーティスト ～美術工芸、江戸から明治へ～」	3月20日～5月9日
あいち健康プラザ 健康科学館	春の特別展示「あっぱれ! 戦国武将」	3月20日～6月27日
トヨタ博物館	企画展「スモールカー大集合」	3月19日～6月27日
真珠博物館	特別企画展「完全版 東「貝」道五十七次 ～江戸・日本橋から浪花・京橋へ～」	4月23日～平成23年4月3日



開 催 館	展 覧 会 名	開 催 期 間
多賀の自然と文化の館(多賀町立博物館)	企画展「多賀の生物多様性とCOP10」	5月11日～6月20日
滋賀県立琵琶湖博物館	ギャラリー展示「鉱物・化石展2010 ほくらは大地に夢を掘る」	3月20日～5月9日
	ギャラリー展示「神秘の鍾乳洞 河内の風穴 写真展」	5月23日～6月20日
大阪市立自然史博物館	特別展「大恐竜展～知られざる南半球の支配者～」	3月20日～5月30日
兵庫県立人と自然の博物館	特別企画「丹波と恐竜を知らう2010 ー第4次発掘報告」	4月24日～9月5日
姫路科学館	特別展「カジル展～歯を通してみる動物の姿～」	3月20日～5月10日
	特別展「めざせ!クワガタ名人!」	6月19日～7月11日
明石市立天文科学館	開館50周年記念事業「時の博覧会2010」	5月29日～8月31日
鳥取県立博物館	企画展「楊谷と元旦 ー因幡画壇の奇才ー」	5月22日～6月20日
倉敷市立自然史博物館	「みんなで作る自然の展示会2010」	4月20日～6月27日
防府市青少年科学館 ソラール	特別展「宇宙の謎を解き明かす」	4月24日～6月6日
	特別展「未来の科学の夢絵画展」	6月19日～7月4日
徳島県立あすたむらんど子ども科学館	サイエンス玉手箱	4月29日～5月9日
愛媛県総合科学博物館	企画展「宇宙への誘い ～宇宙開発展～」	4月24日～5月30日
佐賀県立宇宙科学館	企画展「川と海を旅する魚たち」	3月20日～5月9日

## 【 リ ニ ュ ー ア ル 】

### 山梨県立科学館

[更新箇所] スペースシアター 他

[更新内容] 次世代型最新鋭プラネタリウム「プレアデスシステム」を導入。メガスター-II A、ステラドームプロ、ユニビューがフル連動する形としては、全国初導入となる。現在の人類が知りうる限りの宇宙が詰まったようなプラネタリウム。併せて、常設展示室には、国内最大級のシャボンカーテン装置「スーパーシャボンカーテン」ほか、「生きている地球シアター」、「ひえひえワールド」、「宇宙ステーション」を新設。



[公開日] 平成22年3月20日

[準備期間] 平成22年1月4日～3月18日

### 神戸市立青少年科学館

[更新箇所] 生命の科学 細胞コーナー

[新展示物] 「りけんキッズラボ! ～発生と再生のフシギ～」

[更新面積] 150㎡

[公開日] 平成22年3月20日

[準備期間] 5ヶ月

[出展者] (独)理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター

### 札幌市青少年科学館

[更新箇所] 展示室3階ロボットコーナー

[更新面積] 79.92㎡

[公開日] 平成22年3月25日

[準備期間] 約3ヶ月

[施工業者] (株)北海道博報堂

[総工費] 3,200万円 (旧ロボットコーナー展示物の撤去等も含む)

### 新江ノ島水族館

[更新箇所] 相模の海ゾーン

[更新内容] 来館者の足踏みエネルギーを電気にかえる「命のモニュメント」、海流と共に相模湾にやってくる「季節来遊魚水槽」、興味をもって楽しく観察できる覗き窓を設置した「相模湾キッズ水槽」など

[公開日] 平成22年4月23日

### 鉄道博物館

[更新箇所] メインエントランス2階に新コーナーを設置

[新展示室] 名称: 運転士体験教室

内容: ディスプレイ付運転台 (25台設置) で講師からのアドバイスを受けながら運転士体験を楽しめるシミュレータ

[更新面積] 136㎡

[公開日] 平成22年4月24日

[製作] (株)音楽館

### 産業技術記念館

[更新箇所] テクノランド

[更新面積] 約820㎡

[公開日] 平成22年4月24日

[準備期間] 約3年

[施工業者] (株)丹青社

**TOKYO SCIENCE CO., LTD.**

**ミュージアム・ショップ向／教育用地学標本**



since 1974

地学標本／化石・鉱物・岩石  
古生物／レプリカ・復元模型  
恐竜復元モデル

◆常設ショールーム：紀伊國屋書店・新宿本店1F TEL.03(3354)0131(代表)◆

Fossils, Minerals & Rocks

株式会社 **東京サイエンス**

TEL.03-3350-6725 FAX.03-3350-6745

http://www.tokyo-science.co.jp

E-mail:info@tokyo-science.co.jp

〒151-0051 渋谷区千駄ヶ谷5-8-2 イウォ・アネックスビル

Practical Specimens for Study of Earth Science

小さなボディに大宇宙を詰め込んだ、最新デジタルプラネタリウムシステム

**メディアグローブII (MEDIAGLOBE-II)**

メディアグローブIIは世界で初めてフルカラー投射を可能にした小型デジタルプラネタリウム”メディアグローブ”の後継機種。地上で見られる星空の投射だけでなく、3D天文データベースによる宇宙旅行シミュレーションまで可能になりました。星空自動解説機能、簡単操作で番組を自作できる機能やマクロボタンなど使い易さも格段にレベルアップして運営面もご心配りません。小規模スペースに神秘的な大宇宙をお届けします。



**コニカミルタ プラネタリウム株式会社**

東京事業所 〒173-0003 東京都板橋区加賀 1-6-1

大阪事業所 〒550-0005 大阪市西区西本町 2-3-10 西本町インテス 11 階

東海事業所 〒442-8558 愛知県豊川市金屋西町 1-8

TEL (03) 5248-7051

TEL (06) 6110-0570

TEL (0533) 89-3570

**Panasonic**  
ideas for life

パナソニックだから、  
可能なソリューションがある。



**Core Products**

- Security
- Cross Media
- Mobility

**Total Solution**

- コンサルティング営業
- SI・アプリケーション開発
- 施工・設置
- 保守・メンテナンスサービス
- 運用サービス

Challenge to Change! パナソニック システムソリューションズ ジャパン株式会社  
詳しくはホームページで [panasonic.co.jp/pss/pssj/](http://panasonic.co.jp/pss/pssj/)

**NOMURA**

人が集う場、  
そこにはいつも  
楽しさとか、  
おどろきとか、が  
溢れています。



Prosperity Creator  
**NOMURA**  
<http://www.nomurakougei.co.jp>

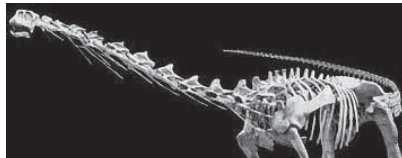
集客環境づくりの調査・コンサルティング、  
企画・デザイン、設計、制作施工  
ならびに各種施設・イベントの活性化、運営管理

株式会社 **乃村工藝社**

本社：東京都港区台場2-3-4 Telephone 03-5962-1171(代表) 〒135-8622  
営業拠点：札幌・仙台・名古屋・大阪・岡山・広島・高松・福岡・那覇・北京・上海  
シンガポール・ミラノ・ニューヨーク

— ご希望の恐竜・化石・動物・人類の  
標本及び模型を探しご案内いたします —

マラウイサウルス  
ティタノサウルス科  
全長—10m



株式会社 **ゼネラルサイエンスコーポレーション**

〒107-0052 東京都港区赤坂3-11-14 赤坂ベルゴビル802

TEL:03(3583)0731 / FAX:03(3584)6247

e-mail:sizensi@shibayama.co.jp

<http://www.shibayama.co.jp>

より良い「社会交流空間づくり」にむけて—。

調査・企画・デザイン・設計・制作・施工・監理・  
運営およびコンサルティング・プロデュース

**Tanseisha**

株式会社 **丹青社** 〒110-8549 東京都台東区上野5-2-2

TEL.03-3836-7221(代表) <http://www.tanseisha.co.jp>

札幌・仙台・名古屋・大阪・福岡・那覇

\*ISO14001認証取得・プライバシーマーク認定取得

全科協ニュース編集委員会

ミュージアムパーク茨城県自然博物館 資料課長

國府田良樹

大阪市立自然史博物館 学芸課学芸員 佐久間大輔

科学技術館 企画広報室室長 田代英俊

国立科学博物館 事業推進部 連携協力課長 亀井 修

全科協事務局

国立科学博物館 事業推進部 連携協力課 (担当：守井)

Tel.03-5814-9863 Fax.03-5814-9898

発行日 平成22年 5月 1日

発行 全国科学博物館協議会©

〒110-8718 台東区上野公園7-20 国立科学博物館内

印刷 島崎印刷株式会社